VISION

The Brotherhood of St. Andrew Japan, Inc.

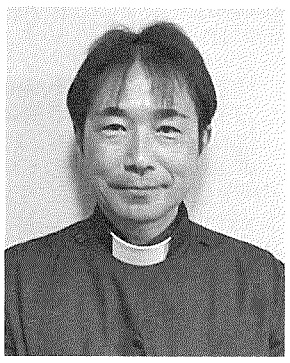
《幻（ビジョン）がなければ民は堕落する》箴言29章18節

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
〒105-0011 東京都港区芝公園3－6－18
日本聖公会東京教区会館内
3－6－18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
TEL 03－3436－4325 FAX 03－3432－1696
http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA会報《季刊発行》
発行人　足立征三郎
編集者　萩谷長生
印刷所　㈱インパルスコーポレーション

BSA林間支部と私

BSA林間支部チャプレン　司祭　ルカ　片山　謙



林間聖バルナバ教会へ赴任する以前からBSAの存在は知っていましたが、立教関係者の会として捉えていたので、私には無縁の団体と思っていました。

そのような私でもBSAの活動に熱心な方として以前から知っていた金子眞さんが私の林間着任と同時に何冊かの小冊子が入った袋を持って来られ「目を通しておいてください」と言われました。中にはBSA関係、ボーイスカウト関係の小冊子が入っていました。併せて、林間の牧師はBSA林間支部のチャプレンであると知らされました。その場で私は自分がBSAの会員ではないことを伝えましたが、金子さんは笑顔で「ええ、ええ、わかってます。大丈夫です。」と答えられました。

金子さんからあずかった小冊子を見ていて間もなく気づいたのは、私がそれまでBSAという会をとても狭く捉えていたということです。以前の版の同胞会事典に次のようにあります。「聖徒アンデレ同胞会は、基督者として当然の責任を果たすために、一定の具体的なプログラムを実行するわけである。しかもそれは前述の如く、洗礼や堅信式に当然含まれている以外の何ものでもない。ただ同胞会はすべての聖公会員が既に約束したところを忠実に実行できるように助成しようとするものである。」

BSAの目的が神の国の成就、またキリスト者となった人々の信仰生活の充実のために奉仕する会であることがよく分かりました。また、キリスト教そのものの目的と会の目的が一致するため、私が会員でなくてもチャプレンが務まるということも理解できました。

私にBSAを知る機会を与えてくださった金子眞さんは8月11日に逝去され、生涯を終えられました。思い起こすと、金子さんと私はよく二人でBSA林間支部として何に取り組むか、という話をしていました。牧師としての私にとってBSAで何に取り組むか、ということは信徒の信仰生活の充実につながる取り組みは何か、ということでもありました。まず、BSAの信徒叢書を使って学ぶ会を金子さんに提案したところ、賛成してくださり、月1回信徒で読合せ、私が解説する方法で学びの場が提供されました。会はコロナ禍に入るまで続きました。

コロナ禍に入って集会ができない状態になり、そのような中でもBSAとして何か取り組むことはできないかと金子さんから相談があり、私は近隣の道路清掃をBSAと日曜学校が他の信徒有志と共に行うことを提案しました。道路清掃なら屋外作業なので密にもならず、黙々と行う作業で、近隣住民への奉仕にもつながります。金子さんはすぐに市の担当部署に相談し、掃除道具など必要なものを市の補助金で購入できるように手続きを進められました。コロナ禍のただ中で始められたこの道路清掃は、今も月1回有志によって続けられています。今後もBSAの取り組みによって林間の教会の礼拝、伝道、奉仕の業が充実することを願っています。

私は信仰の友である金子眞さんの証によってBSAがどういう会かを知りました。BSAの精神に熱き思いを燃やし続けた信仰の友と共にBSA林間支部の活動を喜び楽しみながら携わる機会が与えられたことを神に感謝します。

キリストのもとへ友を招くため、祈祷と奉仕に励むことはすべてのキリスト者の使命ですが、特に会の使命としてこれを掲げるBSAの働きが充実するように主に願います。

（林間聖バルナバ教会　牧師）

「BSAは誰のために、そして何のために」

―BSA創立100周年記念テーマ決まる―

BSA理事会は、7月、BSA創立100周年のテーマとして、**「BSAは誰のために、そして何のために」**を採択した。

100周年プロジェクト会議では、他に「改めて問う"ポール・ラッシュとは"」、「ポール・ラッシュを乗り越えて」、「はばたくBSA、時代を拓くBSA」、「次なる一歩を踏み出そう！」などの案があった。

前の二つはポール・ラッシュに特化した案であるが、これらは100周年記念の個別活動の中で生かすことが出来るのではないかということで見送った。

また、「はばたく・・・」と「次なる一歩を踏み出そう！」は、テーマとしては、具体性に欠けており、選から洩れたが、「BSAに活気を」という意気込みは伝わる。

時代や社会と連動して考える

『日本聖徒アンデレ同胞会史』（1997・伊達宗浩編）やBSA90年史『希望のBSAをめざして』（2018）、機関紙VISIONのバックナンバー、彼の評伝等を読むと、ポール・ラッシュが存命の頃のBSAとその後のBSAの一番の違いは、社会性の有無にあることが分かる。ポール生前のBSAは、周りの社会やその時代との関わりの中で考え、活動していた様子が見てとれる。

それがいつの間にか、内向きになり、「奉仕」といっても、ほとんどが教会内の奉仕に留まっている。それはそれで大事ではあるが、時代の動きや社会と関わる中でBSAのあり方を考えないと、展望が開けてこないのではないか。そのためには、「誰のために、そして何のために」活動するのかと言うことをもっと考慮する必要がある。

2018年にエリザベス・アン・ヘリング著『キープへの道』の翻訳が出版された時、わたしは訳者の松平信久先生から、キリスト教関係の書評誌『本のひろば』への書評を依頼された。書評の最後にわたしはこう書いた。「『キープへの道』を読んで私が覚えるのは、ポール・ラッシュのBSAと今私たちが身を置くBSAとの落差があまりにも大きいという戸惑いである。」

活動はBSAや教会内であっても、テーマや内容に社会性のあるものを自覚して選ぶということから始めてはどうか、というのがプロジェクト会議で出た意見である。

支部・会員の参加を期待する

本部の「BSA100周年記念プロジェクト」でも具体的な活動計画の検討に入る。この機会に会員各位の積極的な提案をぜひお寄せいただきたい。

BSA100周年記念活動を始めるにあたって大事なことは、本部だけの取り組みにしないことである。本部にお任せではなく、支部は支部で独自の企画を立て、取り組むことを期待したい。

地域との協働など支部だからこそ出来る活動があるはずだ。

自分達の教会は、地域から認知されているか。地域から孤立していることはないか。われわれの教会は、なぜ、ここにあるのか。BSAが率先して、地域における「教会は誰のために、そして何のために」を提起してはどうか。

たくさんは要らない。一つか二つ、エッセンシャルなことは何かを考えよう。

本部との共同提案や共催など一人でも多くの会員が参加出来る100周年記念を期待する。

（理事　ダビデ吉松英美）

公示

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会 第113総会を左記の通り開催します。

2023年11月6日
BSA会長　足立征三郎

記

日時　2023年11月25日（土）
場所　インマヌエル新生教会
練馬区小竹町1－32－6
同封の議案資料をお目通しの上、返信はがきにより書面での意見表示をお願いいたします。
（会場への案内図を4面に掲載）

記念感謝礼拝（聖堂）10時30分～
聖餐式
入会・再宣誓式

第113総会（ホール）13時～
第1号議案：2024年度事業活動計画（案）承認の件
第2号議案：2024年度会計収支予算（案）承認の件

BSA研修ツアー2023「聖ヨハネ修士会の歴史とコンウォール・リー女史の働きを学ぶ」

理事　リチャード　倉辻明男

4年ぶりの開催となった今回の研修ツアーは、昨年まで北関東教区におられた木村直樹司祭をお迎えして10月4日、5日の両日に亙って15名の方が参加された。

榛名聖公教会にて

今回お訪ねする訪問先は、木村先生と関わりの深い所で、特に榛名では18年間に亙りお仕事をされた。そのご経験を基に今回は小山・榛名・草津の各地の教会や修道院の働きの繋がりをわかりやすくお話しいただき、実りあるツアーとすることが出来た。

最初の訪問先は「小山祈りの家」。平岡康弘先生のお出迎えを受けて森の中の「旧聖ヨハネ修士会」の建物へ。木村先生から、修士会開設に至るまでのお話、木村兵三神父が神愛修女会を通して榛名の結核療養所の看護活動を支えたお話などを伺った。昼食をはさんで敷地内の墓地へ。森に囲まれた墓所には、竹田鐵三神父をはじめ私たちの存じ上げる多くの先輩方のお墓がある。礼拝堂も大谷石がしつらえられている。静かな、祈りの場に相応しい佇まいであった。

二番目の訪問先、榛名聖公教会では、大山洋平執事をはじめとして輿石勇司祭、鈴木育三執事のお出迎えを受ける。榛名荘病院や新生会の働きの中心となってきた教会について、神愛修女会を中心とした看護活動、看護師の育成、そして、結核治療からその主たる働きが高齢者医療とケアーの提供へと変わっていった様を伺うことが出来た。

翌日、草津での、楽泉園社会交流会館、重監房資料館の見学は心の重いものとなった。「病者に対する偏見と差別」、これは、様々な感染症や人種問題など、私達にとって、遠い昔の出来事ではないと感じた。また、草津のバルナバミッションの中で育てられた子が榛名の看護学校から社会に巣立つなど、人々を社会復帰に誘ったリー女史の業は、正しく生きた教会の働きと感じた。

今回のツアーは、教会の生きた働きを見聞きすることが出来た一方で「偏見と差別」というテーマでは、直近に起きたコロナ禍での様々な出来事を思い起こし、「私たち自身の問題である」ことを改めて強く感じ、良い学びの時を持つことが出来た二日間であった。

BSA100周年に向けて（連載第3回）

BSAの支部活動とは何か、また支部長の役割とは何か

理事　アブラハム　野田　徹

BSAは組織体である。つまり「キリストの御国を拡張するために祈り奉仕する」ことを目的とする本会の主旨に賛同したキリスト者有志により組織された同志的結合体であると説明されている。BSAの組織を生かすものは、もちろん会員自身であり、会員一人一人を結ぶきずなが「祈祷と奉仕」であり、それが会員の精神的支柱となっている。

ではなぜBSAには支部があり支部活動というものがあるのか考えてみたい。定款では、正会員の入会にあたって、支部のある場合は支部チャプレンと支部長の推薦、また支部のない場合には2名以上の正会員と本部チャプレンの推薦を必要としている。一人一人がBSA会員となって、自分の所属する教会を中心に祈り奉仕するために、その活動の支えとなる同志・同胞が近くにいることが、個々のBSA会員にとって大きな支えとなり励みにもなる、というのが大きな理由の一つなのではないだろうか。旧パンフレットには、「（東京近辺だけでなく）全国にある日本聖公会に属する全ての教会にあって、熱心な働き手・奉仕者が連絡を密に保ちながら、キリストの御国拡張という旗印のもとに、がっちりと手を組んだならば、日本聖公会にとって如何ほど大きな力となることでしょう」とある。主イエスは「二人または三人がわたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである（マタイ18―20）」と述べておられる。

ただ、BSA会員として入会された時の経緯や活動拠点の地理的な問題など、様々な事情によりいずれの支部にも属さない個人会員が多くおられることも事実であり、支部活動が重要であることに変りはないが、それがBSAのすべてではないことは周知の通りである。

BSA支部は原則的には教会が単位となっているが、青年信徒の多い学校・団体等にも司牧司祭の同意をもってBSA支部を作ることができる。これはBSAの働きが教会の目的と一致していることを示し、かつ司祭の積極的な指導援助を得ることができなければ真のBSA活動の成果を挙げることが難しいからであると旧ハンドブックにもある。

現在活動中の16の支部にはそれぞれ支部長が選任されており、各支部長は毎年度末を目途に支部の活動報告・翌年度計画・会員名簿を本部に提出するほか、コロナ禍で中断されているが、最近のBSA本部の年次計画においては、可能な限り年1回は支部長会議を持ち、本・支部間の情報交換や課題の協議を行なうことになっている。また、現行定款では支部長は評議員として定められた評議員会に出席することとなっているが、実際に会議の場に参集される評議員や支部長は少なく、今後の会議を活性化する何らかの方策の実現が大いに期待されるところである。

（つづく）

次の信徒叢書提案『福音書を読み解くキーワード』に決まる

7月に発行された信徒叢書『キリスト教と科学』（西原廉太司祭著）に次ぐ提案として、相澤牧人司祭著『福音書を読み解くキーワード』が8月の理事会で承認された。

相澤司祭は横浜教区の退職司祭。説教集『主は牧者（A年）』（2019）、『緑の牧場（B年）』（2020）、『憩いのみぎわ（C年）』（2021）の3冊を続けて出版した。

これらを読んで感じるのは、聖書を読む時には、道案内が必要だということである。

普段使っている言葉でも、聖書では独特の使い方（意味）になり、そうしたことをわきまえて読まないと、思わぬ誤解をしてしまうことがある。

相澤司祭の説教集は、導き手としての分かりやすい説明が随所に見られ、読書会のテキストにしているグループもある。

今回の提案は、福音書を読む時の参考に資することを目的としたものである。

福音書から「福音」を探す

単なる用語集ではない。福音書に出てくる語句を中心としつつ、福音書の文中には出てこないが、そこで含意されているある概念も取り上げる。例えば「終末」。福音書に「終末」と言う語句は出て来ないが、「終末」について言及している箇所はある、それらも取り上げる。

また、「みなさんに平和がありますように」など、福音書には「平和」という言葉がよく出てくる。イエスのいう「平和」とわれわれが日常的に使う「平和」とは、どこが同じでどこが違うのかなど、福音書を貫く思想のようなことも取り上げる。

辞書的な説明ではなく、読んでいて、「なるほど」感が湧いてくるような叢書を目指す。

相澤司祭は福音書を読むことは、小説を読むこととは異なり、「福音」を知る行為だという。字面だけ読んで、「福音」を理解しなければ、読んだとは言えない。

今回の企画は、福音書に込められている「福音」探しの旅にみなさんを誘うものである。

文章は、信徒伝道書の趣旨に沿って、質を落とさず、読みやすさ、分かりやすさを優先する。

全三冊で、2024年から毎年一冊ずつ発行する。

（理事　ダビデ吉松英美）

書評　BSA信徒叢書

西原廉太著『キリスト教と科学』

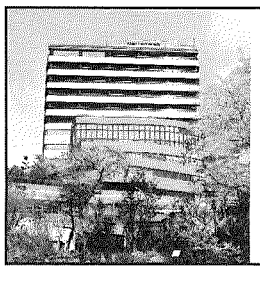
阿佐ヶ谷聖ペテロ教会
上智大学名誉教授
ヨセフ　森本光生

最近出版されたBSA信徒叢書の一冊に、西原廉太さんの「キリスト教と科学」がある。表題のテーマからは、数百頁の大著をイメージするが、この冊子は、小さな判で、全部で28頁に過ぎない。この豊かな内容を要領よく纏めた著者の力量にまず刮目する。

西欧の大学の伝統から言えば、一つの大学は、神学と自由七科を含むべきで、本冊子の扱う「科学」、すなわち自然科学もキリスト教を扱う学科と共存し、互いに対話すべきである。中世の頃までは、素朴な協調が信じられていたが、天文学の進歩により、ガリレオの地動説が天動説に取って変わる頃、一つの変化が生じた。また、ダーウィンの進化論は、創世記の天地創造の神話に疑問符を突きつけた。

この小冊子では、これらの自然科学とキリスト教をめぐる葛藤の歴史がより深く、しかもコンパクトに纏められている。

本小冊子の最後のパラグラフでは、明治以降に設立された日本の大学の特徴は、「神学抜き、工学あり」と述べ、付言して「リベラルアーツ教育の深いところでの理解、そして豊かな思想性の涵養を軽視してきた」と批判している。キリスト教でない文化風土の中で、自然科学を内在するキリスト教思想をどのように大学教育において生かしていくのか、著者の大学人としての見解を伺いたいと思いつつ、小冊子を読了した。



創立の恩人　ポールラッシュ
学校法人メイ・ウシヤマ学園
ハリウッド大学院大学
ハリウッド美容専門学校
〒106-8541 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドプラザ
0120-083394（オハサミクシ）　www.hollywood.ac.jp

ポーロ金子眞さんのご逝去を悼みます

横浜山手聖公会
ミカエル　正木　實

BSAが一般社団法人聖徒アンデレ同胞会許認可申請を内閣府大臣官房公益法人室に提出するに当たり、金子さんがBSAの定款変更および事業目的、事業内容を担当されましたが、特筆すべき点は、従来の事業目的である祈祷と奉仕を以て日本に基督の御国を拡張することを唯一の目的とするから、この法人はキリスト教の精神に基づく「祈祷」と「奉仕」の実践をもって社会福祉の増進と世界平和の実現に寄与することを目的とするに改定したことです。これによりBSAのミッションが明確に示され、将来の活動の礎となったことは金子さんの見識と賢明な判断であったと感銘を受け、感謝しています。

さて、箱根駅伝と言えば金子さんの並々ならぬご苦労、ご努力を思い出します。金子さんは立教大学の教職員、OB、OGに呼びかけ、幾多の困難にも怯むことなく中学・高等学校長、大学総長まで説得し、箱根駅伝参加チームの育成5ヶ年計画を策定して、その成果を楽しみにしていました。ところが去る8月11日85歳でお亡くなりになり、かえすがえすも残念でなりません。金子さん亡き後、箱根駅伝は来年、第100回大会を迎えようとしています。

私は金子さんと協力してBSAの資金集めのために各種企業団体、教会関係等に依頼請願に奔走しました。BSAは公益法人としての免税措置の対象外であるため、VISIONの広告協賛の形でご協力いただきました。BSA運営面（資金面）で幾分か支援できたかと故人共々自負しています。

さらに、キープ協会の長期計画事業"国際交流研修センター"建設募金に際し、経団連の協力、推薦で40数社・団体を回った時も、金子さんの並々ならぬご支援、ご奉仕がなければ8億という目標は達成できなかったと思います。改めて深く感謝するとともに心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。主の平安。

（元キープ協会常務理事）

ビジョン広場

老いてこそ聖書に従う

立教学院諸聖徒礼拝堂
評議員　クレメント　国見　登

あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。
―フィリピの信徒への手紙2:13

この聖句は、米国聖公会司祭加納久憲先生からいただいたものです。

人は誰でも何か事をする時には、計画をたて、実現のために努力します。望み通りに事がはこばない時は、新たな計画をたて、それに向かって力をつくします。

失敗は成功の母といわれますが、失敗によって自分の欠点や方法がわかり、次には成功することができる。

これらは自分の力で成し遂げたと思われるが、実は神様が一人一人の内に働いて人々に希望を持たせ、業を行わせているのです。

この個所は私の座右の銘として、生きる希望と力を与えられています。主に感謝。

聖アンデレ教会
評議員　ミカエル　松岡正治

敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。
―マタイ5:44～45

現在89歳になった。今迄多くの試練に遭遇して来たが、その度に想い出すのはこの聖句であった。

社会に出れば自分と意見が合わない人の方が多いのは当然である。職場でも今思えば多くの苛めに会ったが、この聖句で救われて来た。

また、「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」という「ルカ6:27」の言葉も心に残った。

東北教区退職執事
盛岡支部　ヨハネ　金子昭三

わたしを支える岩
主は生きておられる
わたしを救われる神に
栄光あれ
―祈祷書詩篇18:46

先の戦争で学徒出征、九死に一生を得て帰国、その後、東京新橋駅前高木法律事務所で書生、夜は神田の正則英語学校で学び、コッペパン1ケを頂いて、次の歌を歌いました。

Into my heart,
come into my heart,
Lord Jesus.

主イエス様、おいでください。

ここで初めて聖書を知りました。しかし、結核に冒され帰郷。手術の後、アフターケアで花巻温泉サナトリウムへ入所、ここでのちの家内と知り合い、盛岡聖公会村上秀久牧師を紹介され、教会へ通うようになりました。

その後、家内と二人で教会の近くで小さな電気店を経営。

主日には、日曜学校で奉仕。

BSAでは、モットーの「一人が一人を」に従い、友人の照井君を誘って25歳で洗礼を受けました。

当時は人生50年と言われていました。東北教区の田崎主教の勧めで思い切って特任（無給）聖職を志願、4年後執事に按手されました。以来41年間、月一回の説教奉仕をしています。

人それぞれ人生には色々ありますが、多くのお世話を頂いた方々、神様に心から感謝を申し上げます。

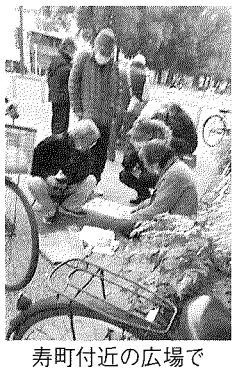
寄稿　横浜寿町―つづき

インマヌエル新生教会
ヨハネ　松平謙次

寿町健康福祉交流センターは数年前に出来た新しい市の施設で、官民が協力・連携してより良い町作りに取り組もうとしているようです。寿町の歴史の掘り起こし、広報活動、シンポジウム、バザー、今後のまちづくりのビジョン作りなどに積極的に取り組んでいる様子が見受けられます。

インマヌエル新生教会が出来る前、練馬聖ガブリエル教会有志は山谷まりや食堂で10数年ボランティア活動をしてきました。我々が知らなかっただけなのかもしれませんが、山谷にはキリスト教会がいくつもありますが、横の繋がりや、官民協同のまち作りの計画などはなかったように思います。寿町にはバプテストの立派な教会があるのは目にしましたが、施錠してあって中に入ることや話しを聞くことは出来ず、この街でのキリスト教会の活動の実態は分かりませんでした。山谷にしろ寿町にしろ、このような町でのキリスト教伝道は難しい面が多いだろうと思いますが、山谷で菊地譲牧師が自らも日雇い労働者として働きながら伝道を始め、30年間こんにちまでその活動を続けている姿を見ると、キリスト者が地域と共に生きるということはどういうことかを教えられているように思います。

さて前号で、私の教員としての初任地が寿町と学区が隣接する学校だったと書きましたが、その学校（公立中学校）の事について少し触れます。寿町周辺は戦後"寄せ場"として知られるようになり、各地から労働者が集まって来るようになりましたが、多くは日雇い労働者で生活は苦しく、路上生活をする人も少なくありませんでした。



寿町付近の広場で

その地区の学校の子どもたちも、貧しい子どもや生活が荒れている子どもが多く見られました。私が勤めていた時期は"シンナー遊び"というのが流行っていて、シンナーを吸ってフラフラになった生徒が校舎のガラスを素手で割って血だらけになったり、授業中校舎内をバイクで走り回ったりする生徒がいたりという状態でした。このような状態を何とか変えたいと思う教員たちの苦労は長く苦しいものでした。その時の教え子たちもすでに還暦を過ぎ、「そう言えばあの頃は・・・」と笑って話せるようになりました。かつて"日雇いとドヤの街"と言われた寿町やその周辺の地域が今後どのように変わっていくか、関心を持って見ていきたいと思います。

★一般ご家庭の引越
★オフィスの引越
★フロアーの移動
★各種展示会セッティング etc…
事務所引越のエキスパート!!
株式会社ギンテック
港区港南3-4-12
フリーダイヤル 0120-223-008
TEL・3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店
CHEESE CAKE JOHANN HOME ヨハン MADE
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ
学校業務受託、人材派遣等承ります。
株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント
http://www.rikkyo-planning.co.jp

St. Luke's
会員制健康クラブ 聖路加フレンズ
☎ 03-3541-1056
受付時間 平日9:00~16:00
https://www.stlukes-friends.com/

清里高原だより 清泉寮ニュース

日本聖徒アンデレ同胞会との連携強化

●関係強化とご協力のお願い

一　清泉寮の将来にわたる顧客基盤づくり

聖公会の信徒や関係団体の皆様には、キープ協会の事業に対して、日頃より大きなご支援をいただき、誠にありがとうございます。

そうした中、キープ協会は、聖公会の関係者とのつながりを改めて掘り起こし、関係性をさらに深め、将来にわたる顧客の基盤づくりに取り組みたいと考えております。

そのために、日本聖徒アンデレ同胞会の持つ大きな知名度、人脈、ネットワークをお借りしたい旨のお願いをさせていただいたところ、足立征三郎会長を始め、皆様方にご理解を賜りましたことに、心よりの感謝と御礼を申し上げます。

ともに、ポール・ラッシュを創設者に戴き、清泉寮アンデレハウスの設立を始め、これまでも深い関係を築いてきた公益財団法人キープ協会（清泉寮）と、日本聖徒アンデレ同胞会（BSA）、双方にとって意義のある連携強化に繋がることを心より願っております。

二　BSAの担当者を任命

キープ協会の営業担当の職員であり、日本聖公会の信徒、BSAの会員でもある川田治毅（かわだ・はるき）をBSAの担当者に任命いたしました。グループや団体利用の相談から個人的なご利用まで、ワンストップの窓口として、会員様の立場に立った清泉寮との橋渡しをさせていただきます。どうぞお気軽にご相談ください。

FAX　03―3432―1696
Mail　keep-tokyo@seisenryo.jp

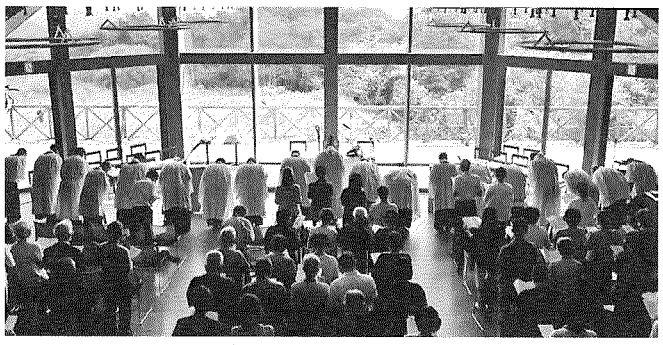
三　利用しやすくなる清泉寮

清泉寮のHPにBSAの会員様だけがアクセスできる専用サイトを作り、お得な宿泊プランをご案内し、そのまま予約ができるようになります。対象も、会員様やそのご家族はもちろん、会員様の直接のご紹介者も対象とさせていただきます。QRコードからアクセスできます。内容は適宜更新されます。

●横浜教区宣教150周年記念大家族キャンプ開催

ゴスペルのプログラム

「横浜教区宣教150年～そしてこれから」をキャンプテーマに、9月18日・19日の2日間、5年ぶりに清泉寮で開催されました。



清泉寮大ホールでの聖餐式

また、10月6日～8日の3日間、GFS全国研修会が、「神様と全国の仲間と出会って話して元気になろう！」をテーマに開催されました。

さらにこの後、11月10日からは、4日間の予定で日本聖公会宣教協議会が、「いのち、尊厳限りないもの～となりびとになるために～」を主題に開催されます。

ほかにも、この春からは多くの聖公会関係学校の新入生キャンプや修養会などが再開されました。ようやくコロナ禍を乗り超えた日常が戻りつつある中、清泉寮が、関係する皆様方のよき交わりの場となる機会が増えてきたことを何より嬉しく思います。

「VISION」文芸

信濃路へ新蕎麦訪ね駆る愛車　野田　徹

往年のバンド気取りで秋ライブ
友来たり酔いて楽しき夜長かな

聖堂の消毒液や梅雨明ける　雲辺（松岡正治）

牧師にも老後の話雲の峰
行秋の銀座通りや道変える
彼岸花青山墓地で再会す
鰯雲連休中の独身寮

（研修ツアーに参加して）

リーさんを女史とは呼ばず「かあさま」と呼びし草津のやさしき人ら
ゲヘナ谷を「幸福の地」に転ぜしめたるリー女史の献身の業辿る草津路　松平謙次

虫の音に未だ来ぬ季節（とき）を告げられて今宵の月を待ち望むらむ
秋あかね里に下りて季節（とき）を告げ終わりし時の虫の音涼し
山里に鹿追う銃の木霊して疲れし吾に秋をいざなう　高橋恵太郎

今夏ほど帽子被りし年はなし気になる台風今日は立秋
十月の雨や冷たき神谷町、教会に通じる坂道険し
犠牲者の日毎増え行くパレスチナ乳と蜜流るる土地に鮮血したたる　吉松英美

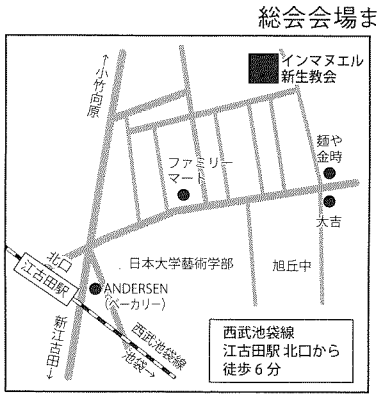
理事会報告（8月～10月）

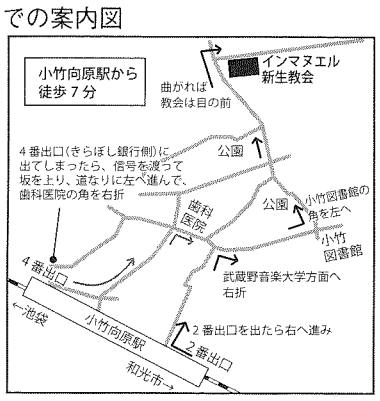
8月21日（月）
資料保全に関するキープ協会との協力について
BSA100周年記念テーマ決定
信徒叢書提案『福音書を読み解くキーワード』承認
信徒叢書の贈呈について　他

9月25日（月）
VISION184号発行計画
研修ツアー申し込み状況
BSA100周年記念計画
信徒叢書の贈呈について
第113総会について
2024年度事業活動計画・同予算案について　他

10月23日（月）
研修ツアー実施報告
第113総会について
2024年度事業活動計画・同予算案について　他

総会会場までの案内図





お詫び・訂正

前号中、故甲藤善彦兄の追悼文と訃報に誤記がありました。正しいご逝去日は4月2日でした。お詫びして訂正します。

訃報

BSA元理事
ポーロ　金子　眞兄（85歳）
（林間聖バルナバ教会）
8月11日逝去

編集後記

・故金子　眞さんの追悼文（4面）をお願いした正木實兄は、原稿締め切り間際に令夫人を看取り、忌服のさなかでした。そのような悲境での執筆に敬服し、改めて誠実なお人柄を窺い知る仕儀となりました。感謝。

・BSA元理事の故ポーロ金子　眞兄は7年前に脳出血で倒れるも、間もなく退院し、持ち前の「世話好き」気質を如何なく発揮して目出度く回恢されました。現役時代は大手音響機器メーカーの才知優れた営業マンとして東奔西走。茨城在住中に水戸聖ステパノ教会で堅信礼を受けています。ボーイスカウト、その他多くの非営利団体の要職を兼務する傍ら、BSA活動や宣教にも熱心に取り組んでこられました。一昨年、既往症が再発し、1年2ヶ月の入院、加療の末、8月に天に召されました。パラダイスでの魂の平安を心よりお祈り申し上げます。

（N・H）